

## Amir Tsarfati 氏 ウィーンより中東情勢アップデート

2018年 6月 13日公開

(日本時間 6月 14日午前 5時=ウィーン時間 6月 13日午後 10時)

.....

こんばんは。こちらはすでに「おやすみなさい」の時間ですが、ウィーンより、アミール・ツアルファティです。中東情勢のアップデートを短くお伝えしたいと思います。

トランプ大統領と金正恩委員長との、シンガポールでの首脳会談が中東に及ぼす影響についてお話します。その影響は、もう既に感じられますので、皆さんも知っておくべきだと思います。

まずその前に簡単にお知らせしておきたいのは、この 48 時間の間、イスラエルは二つの前線に対応しています。その一つに、私たちはまたしても、シリア国内にある地対地ミサイル格納庫を破壊しました。格納庫はイラン所有のもので、ロケットはヒズボラのものでしたが、彼らは、我々が何かをしたということを認めていません。これは良い事です。彼らは、何らかの形で報復しなければならないという重荷を負いたくないのだと思います。彼らはすっかり破綻していて、混乱しています。そして、あまりにも屈辱を受け過ぎたので、今回のことに関しては、もはや何もしたくないと思うところまで来ているのです。ただ、今日起こった非常に驚きの出来事は、イスラエルのドローンと、その後には戦闘機が、シナイ半島内にあるテロリストの標的をいくつか攻撃したのです。信じがたいかも知れませんが、報告では、我々がエジプトの軍隊を助けたとのこと。しかも、あちらに軍隊を送ったのは我々だけでなく、バーレーンも何かを送ったようです。これは特記すべき事です。考えてみてください。エジプトがイスラムテロリストと戦うのを、イスラエルとバーレーンが助けているのです。それを考えると、今は確実に終わりの時です。

以上が、私たちの近隣で起こっている二つの出来事でした。

では、トランプ・金正恩首脳会談について、何が起こったかを少しお話ししましょう。



6月12日に行なわれた米朝首脳会談

この、成功に終わった、二人の指導者たちの会談の背景ですが、私たちはすでに、二つの事を聞いています。

- ① 在イスラエルのアメリカ大使デイビッド・フリードマンがワシントンに呼び戻されました。
- ② ジャレッド・クシュナーが間もなく、イスラエルとサウジアラビアを訪問します。



フリードマンアメリカ大使（左）とジャレッド・クシュナー大統領上級顧問（右）

これは大きな事です。

トランプ大統領がシンガポールで決断した事には、非常に励まされます。

トランプ大統領は「今こそ、中東に対処する時だ」と決意し、来たるべき時代の『究極の協定』を約束し、それは皆が考えるよりもはるかに大きなものであることを約束しました。私が知る限りでは、我々が目にするようになるのは、次の通りです。

まず第一に、彼らはこれまで行われてきた事の順番を変えるようです。

イスラエルに対しては、サウジアラビアとバーレーン、それと恐らくアラブ首長国連邦とも関係を持つように提案されると思います。考え方としては、スンニ派イスラム国家と、ユダヤ人国家間の平和は可能であることを見せて、何らかの形で和平プロセスに火を点け、パレスチナに譲歩を迫るということです。なぜかと言えば、一つ確かな事、非常に明確なのは、ワシントンとエルサレム、それからリヤド（サウジアラビア）の間を行き来している記録から、私のところに漏れ聞こえてきた内容によって、私が知っているのは、パレスチナは恐らく、この20年の間に受け取った協定の中でも、最悪の内容を受け取ることになるようです。1994年にイツハク・ラビンが携わったオスロ合意では、最終的にパレスチナは西岸のほぼ100%を受け取ることになっていたのです。



オスロ合意

言い換えれば、エルサレムと神殿の丘を含む、エルサレムの旧市街も交渉の中に入っていました。私たちが、イスラエルには議論の余地もないと気付いた、過去数年間の他の問題は言うまでもありません。

私の理解では、アメリカ政権は両者に次のことを提示するようです。

パレスチナは直ちに西岸の50%以上を支配するようになります。

イスラエル人街も、西岸の大きな入植地も退去する必要はありません。

パレスチナの首都はアブ・ディスとなり、ここはエルサレム近隣東側ですが、こんにちではエルサレムの一部ではありません。ここは西岸地区にあり、1990年代、私もまだ軍にいましたが、軍政府もいて、イスラエルが支配していた時でさえ、エルサレムの一部だとは見なされていませんでした。その地域とエルサレムの間に

は壁があります。



アブ・ディスとエルサレムを隔てる壁

それから、パレスチナは武器を所持せず、紛争を終えることで合意しなければなりません。言うまでもなく、彼らがこれを受け入れるとは、私は思いません。

しかし、よく考えてみてください。

サウジと、恐らくバーレーン、それからアラブ首長国連邦が、すでに何らかの形でイスラエルと和平を結ぼうとしていますから、恐らくパレスチナは悪の枢軸の方に傾くでしょう。それはもちろん、イラン、トルコ、ロシアです。

皆さん、ロシア、トルコ、それからもちろんイランが現在、経済的に流血しています。

パレスチナは恐らく、口実を見つけてイスラエルに復讐するでしょう。

我々には現在、燃え上がっている別の問題があることは言うまでもありません。

金正恩は核兵器をどうするのか？

前回の私のアップデートでお伝えしましたが、ドナルド・トランプが金正恩と会う事が決まって以来、突然、非常に奇妙な形でロシアとシリアが、北朝鮮の指導者との面会に大きな関心を示し始めたのです。皆さんも私も知っている通り、北朝鮮は、イスラエルが2007年に破壊した、シリアの核原子炉の建設を手助けしただけでなく、建設もしています。

私は、金正恩のことは信頼していません。もちろん私は、朝鮮半島の平和も望んでいますが、失礼ながらあの人のことは、これまでも、そしてこれからも、私は決して信用しないでしょう。しかし私が思うに、彼は核排除しようとしています。ただ問題は、彼はこれらの武器を誰に与えるのか？多分、これらの武器を誰に売却するのか？でしょう。そこで、この全貌にシリアが関わらないか？そしてもし関わるなら、それでダマスカスが滅びるのか？と私は思うのです。それは誰にも分かりません。ただ一つ確かなのは、朝鮮で起こった事は、中東に大きな影響を及ぼすということです。それは多分、武器がこちらにやって来るだろう、ということだけでなく、トランプの「究極の協定」の結果として、すぐに中東ではイスラエルとパレスチナの両方に非常に圧力がかかるでしょう。

先ほども言いました通り、在イスラエルアメリカ大使デイビッド・フリードマンが現在アメリカ合衆国に戻り、ジャレッド・クシュナーは間もなくサウジアラビアとイスラエルを訪れて、——彼らは現在、協定をまとめようとしています。イスラエルはその協定を好きではありません。しかし我々は、パレスチナの方がもっとそれを嫌い、そして彼らはいつものようにそれを拒否するだろうと信じています。

ただ、今回は打撃がもっと大きいでしょう。見ての通り、ハマスは失敗して、もはや何も残っていません。彼らは、ガザ地区で自分たちが行なった事の全てが上手く行かなかったことに気付いたのです。ハマスは大失敗しました。

パレスチナは、アメリカが現在、完全に自分たちの味方ではないと気付きました。彼らはもはや、国連でイスラエルを拷問にかけることが出来ません。アメリカがそれを許さないからです。

ところでアメリカは政策をすっかり変えて、もはや国連の反イスラエル決議にただ拒否権を行使して、イスラエルを防衛するだけではありません。アメリカは今後、意味もなく不正にイスラエルに敵対する国々に対して、積極的に罰を加えます。アメリカは、一つの国だけを執拗に侮辱的に不公平に取り扱う 200 ヶ国近くに対して発表しました。アメリカは、常にそのような事を行ない、脅している国々に対して、経済的立場を武器として利用するとしています。アメリカが決断したのは、基本的には次の通りです。

「あなたがたが引き続き、国連でそのような態度を取るのなら、あなたがたをアメリカとは取引させない。」  
これで今後は多くの国が、行動する前によく考えるようになるでしょう。

このように、私たちは確実に変化を目撃しています。現在、国連の中で私たちに与えられている、この想像を絶する政権による、素晴らしい変化の連続です。

ドナルド・トランプが和平案を提示すると、直ちに攻撃する人たちがいますが、一つ説明しておきます。私が信じているのは、私は何度も言ってきましたし、その事は皆さんもご存知でしょう。パレスチナは、イスラエルとの和平は一切望んでいないことを、トランプ大統領は今の時点で知っている、と私は信じています。彼はそのことを理解しています。イスラエルと平和を持ちたい人間が、テロリストの家族に資金提供するなど有り得ない、と彼は理解しています。それはあり得ません。また彼は、パレスチナには何を提示したところで、彼らが断ることも理解しています。彼らが望むものは決して与えられないからです。エルサレムが一番の問題です。エルサレムは絶対に彼らの首都にはなりません。アメリカ合衆国がエルサレムをイスラエルの首都として承認した瞬間から、基本的にはそこを他の国や他の将来的な国の首都として認識する事はありません。パレスチナはまた、サウジが彼らのために戦わないことも、彼らのために地面に横たわることもしないと理解しています。

パレスチナは、エジプトとヨルダンもまた彼らのために戦わないことを理解しています。現在、彼らは彼ら自身の問題を抱えているからです。

現在、ヨルダンの王は非常に大きな課題に直面しています。以前お伝えした通り、彼はサウジアラビアから 250 万ドルを受け取りました。しかし問題は、王に敵対する者たちは、今や経済的な理由だけでなく、彼が頼りにし、信頼していた、最も忠実なベドウィン（遊牧民）たちでさえ敵対しているのです。これはかなり大きな事です。

エジプトも自身の問題を抱えています。ですからパレスチナは現在、非常に困っています。彼らのために戦い、彼らの権利のために立ち上がることを誓う国は、トルコとイランだけです。

ですから、トランプ大統領が間もなく提示する和平案によって、非常に興味深い事が起こるのを我々は目撃するでしょう。

私は、トランプがイスラエルを分断するとか、エルサレムを分断するとかいった、そういう結論には先走りません。アメリカ政権の一人一人が、パレスチナとイスラエルの間に和平協定をもたらそうとしています。実際、「パレスチナ国家」とか「二つの民族の二つの国」といった呪文を唱えない初めての政権は、現政権です。トランプ大統領は、これが唯一絶対的な解決策だ、とは一度も言っていません。事実、彼は

「あなたがたが好きなように呼ばばよい。『国』でも『自治国家』でも『政治的被造物』でも、お好きなように。それを決めるのは、両者の問題だから」

と言っています。さらに、

「一国でも、二国でも、三国でも、それを決めるのは当事者だから」

と言いました。

トランプ大統領はまた、エルサレムをイスラエルの首都として承認した後、嘆きの壁のような聖地をパレスチナの支配下には渡さないことを決意しています。ちなみにこれはビル・クリントンもバラク・オバマもやろうと考えていたことです。ですから皆さん、理解しておいてください。解決策をもたらそうとする働きの側で、私たちが忘れてはならないのは、

① この種の解決策は、パレスチナが直ちに拒否します。

② 少なくとも、大統領は

「わたしは最善を尽くしたが、彼らがそれを望まないのなら、私はそれで構わない。これは彼らの問題だから」と言えるようになるのです。

ただ、私たちがさらに考えるべきなのは、トランプ大統領はアメリカを再び偉大にしたいのです。

金委員長との首脳会談直後の記者会見で、彼が言った事の一つに

「アメリカは韓国との軍事演習を止める。第一に、これは挑発行為だから。」

これは真実ですよ。一つの国の真ん前で、何千発ものロケットを飛ばし、爆破物を爆発させ、相手の国はそれが自分たちと戦うためであることを知っているのですから。それから彼はまた、

「我々は彼らと平和について語ったのだ。それなのに、彼らの目の前でそれを行なうことは出来ない。」

と言いました。さらに

「この軍事演習には膨大な費用がかかるのだ。B-12 をグアムから飛行させるにはあまりにも費用がかかりすぎる。20 万人以上のアメリカ兵を朝鮮半島に移すのには莫大な費用がかかる。」

彼の発言は基本的にはこうです。

「私には、アメリカの回復、経済、軍隊の回復が託されているのだ。私はどんな事をしてでも、我々に興味のない場所でのアメリカ軍駐留を最小限に抑える。」

韓国や日本は、この首脳会談の後、少々心配していると思います。

これがどこに向かうのか、彼らにはよく分からないからです。

イスラエルは不安には思いません。

イスラエルはすでに、自分たちだけで次の戦争を戦う準備をしているからです。

覚えていますか？ 次の戦争での勝利を、エゼキエルは実に明確にしています。

神が超自然的にご介入され、イスラエルの代わりに戦争に勝利されるのです。

それによって諸国が、彼こそが神であることを知るので。

このように私たちは、アメリカが和平計画と同時進行で、効率的にアメリカの経済を上昇させるために、削減できるところ、すべきところは切っていく様子を目撃しています。イスラエルは、我々が敵に直面する時には単独であるということを理解しています。アメリカからは武器を与えられるかもしれませんが、装備の面では何らかの援助を得るかも知れません。しかし私は、トランプ大統領が膨大な数のアメリカ兵を再び中東で戦わ

せるようなことはしない、と思います。以上が現在起こっている事です。

ところで、現在シリアではいくつかの地域で ISIS が支配を取り戻しています。

ロシアは疲労困憊、イランは破綻しています。

そこで ISIS がそれを利用して、どこからともなく現れ、シリアの軍隊を攻撃し、砂漠に戻って行きます。この数日間、シリアもロシアも、他の勢力にも、ISIS によって、多数の死者が出ています。

最近、イスラエルが何千人という数の予備兵を召集しているというフェイクニュースがありました。差し迫る戦争に備えているとか、ミサイルがトランプ大統領に命中しそうだったとか何とか、実に様々な問題に関するフェイクニュース。

皆さん、理解しておかなければなりません。

インターネット上には、現在、おびただしい数の狂人たちがいます。

無責任な教師たちが、根拠のない噂を広めています。

言っておきますが、もしイスラエルが何千人もの予備兵を召集すれば、誰もが分かります。

数日前に私がお伝えしましたが、私たちは予告なしで訓練を行いました。しかし、それだけです。これはイスラエルの最上級軍司令官が計画したことで、当然、一般の兵士たちはそれについて知りません。これが予告なしに行なわれたのは、仮に戦争が起こって、直ちに部隊に戻るように命じられた時に、彼らがどのように行動するかを見るため、それだけの目的です。膨大な数のイスラエルの兵士が予備役につくように召集され、北部に移動している、というのは無責任であり、事実ではありません。もちろんあの地域は、シリア南部からシリアが攻撃して来ることに備えていますよ。しかし、どんな事であれ、イスラエルが自分たちの安全を脅かすようなことをするとは思いません。何かあれば、皆が分かりますし、それは私たちも明確にしてあります。また私は、それが起こるとは思っていません。ですから、あそこは実に脆い地域ですよ。

そして先ほども言ったように、朝鮮半島で物事が非常に上手く行ったトランプ大統領は現在、イスラエルとアラブの枢軸との間の動きに火を点け、前進させようと決意しています。

繰り返しますが、クシュナーはサウジアラビアとエルサレムに向かっています。

在イスラエルアメリカ大使デイビッド・フリードマンはワシントンに呼び戻されました。彼らはいくつかの事を話し合っています。

私たちは全てを気に入っているわけではありません。

ただ、言えることは、パレスチナは確実に書面に書かれていることを嫌がるでしょう。

そしてサウジは、現場に現れてパレスチナを押しやるように命じられています。

パレスチナは継続して否定するでしょうが、そこでサウジは

「それなら我々は、イスラエルと和平を結ぶ。」

もしくは少なくとも

「イスラエルとの関係を正常化する」

「我々はお前たちを待たない。お前たちは、我々を人質にすることは出来ない。我々には、今、イランとの戦いでイスラエルが必要なのだ。」

と言うでしょう。

ということで、非常に面白い事が起こっています。北朝鮮とアメリカの首脳会談が、中東の和平プロセスに再び点火することになると、私は思います。それから、「究極の協定」が近々交渉のテーブルに上がると思います。またそれによって、非常に、非常に多くの鬱憤を生み出すと思います。そのほとんどはパレスチナ側からです。

エルサレムが、再び大問題となります。彼らにはそれが与えられないからです。

そこで彼らはそれを要求するでしょうし、彼らは確実に、トルコやイランといった他のムスリムたちに助けを求めるでしょう。

非常に興味深い事がこの先に待ち受けています。

目を上に上げておきましょう。

私たちは確かに、確実に、物凄い事を目にしているからです。

私がこんな恰好をして、こんな風に疲れているのは、つい先ほど、3時間に及ぶ説教を終えたばかりだからです。

教会にはイタリアやドイツ、もちろんオーストリアから、それとルーマニアから1,000人以上が集まりました。神の人が、神の御言葉に飢えています。そこにたくさんの若い人たちが来ていたことに、とても励まされました。

ついこの間、若者ツアーを終えたばかりですが、50人が異なる6つの大陸から集まりました。私たちは現在、若者への伝道を広げようとしていて、フェイスブックでは“Behold Israel Young Adults”のページを開設しました。

来年はバス2台にして、若者ツアーに紅海とペトラを追加します。

皆さんに素晴らしいお知らせです。

今回のこのツアーに参加した、二人の若者のお父さんが、——ご自身の娘さんたちが物凄い影響を受けて人生が変わるのを見て、次回のツアーで、若者10人分の資金援助を申し出てくださいました。こういう事がもっと起こるようにと、私たちは願っています。経済的にこのようなツアーに参加出来ない人たちを、私たちはもっともっとここに招きたいのです。私たちはこういった若い世代に影響を与えたいのです。彼らを、コンピュータや携帯電話の画面から離して、彼らにこの地を見て欲しい。彼らに「Behold Israel/イスラエルを見て」欲しいのです。私たちはこの事に非常にワクワクしています。

もう一つエキサイティングなお知らせは、Behold Israel が His Channel に登場します。His Channel はクリスチャンのインターネットテレビで、6月22日に、我々の番組第一回目を放送します。私は、これをとても楽しみにしています。実は、His Channel が私たちに連絡をしてきて、番組を提案してくださったのです。もちろん、私たちは合意しました。このような事を断る人はいません。とても感謝しています。

それだけでなく、前回もお話したと思いますが、私たちのロゴ入りグッズを購入したい方のために、私たちの購入先がオンラインショップを開設してくれました。前にも言いましたが、私たちは非営利団体ですから、商



品販売はしていません。しかし、私たちが自分たちで使うシャツや帽子、ジャケットを購入している販売元が、私たちの願いを聞き入れて、オンラインショップを開いてくださいました。“beholdisraelstore.com”です。そこで、あらゆるロゴ入りグッズをご購入いただけます。

ところで、“I am a Watchman”と書かれたバンパステッカーもありますよ。私たちがデザインしたもので、とても素敵です。エゼキエル書からの“I am a Watchman”と、我々のロゴが入ったバンパステッカーで、車を運転していると、あなただけでなく、他のWatchman/見張り人もいることが分かるのですから、素晴らしいです。

繰り返しますが、これは私たちの運営するお店ではありません。しかし、確実に私たちの利益にもなります。彼が利益の中から何%かをミニストリーに寄付してくれると言いますから。非常にありがたい事です。彼のオンラインショップは“beholdisraelstore.com”です。

Young Adults/若者のフェイスブックページは、“Behold Israel Young Adults”

近々、来年のツアーの費用や全てを書いたパンフレットを配布します。

2019年は、座席がバス2台分と限られていますので、お急ぎください。

2020年は、もし私たちがまだここにいるなら、バスを5台にして、若者たちのミニカンファレンスをしたいと思っています。イスラエル人の賛美チームと若者たちとで、毎晩賛美をして、毎日バイブルスタディーをします。私たちはこの世代に影響を与え、彼らの人生を変えて、家に送り返したいのです。

皆さん、ありがとうございます。

私のためにお祈りくださって、ありがとうございます。

現在、私はオーストリアのウィーンにいます。引き続きルーマニアに向かいます。今月は後にポルトガルへ行き、7月は日本、オーストラリア、それからニュージーランドを訪れます。9月は南アフリカ、カナダ、アメリカです。皆さん、どうかお祈りいただければと思います。

ありがとうございます。では、お祈りして終わりにしましょう。



ヴェイシエメレハー	アドナーイ	イエヴァーレフハー
וְיִשְׁמְרֶךָ	יְהוָה	יְבָרְכְךָ
..(主が)あなたを守られますように	主が	あなたを祝福し

ヴィーフネッカー	エーレーハー	パーナーヴ	アドナーイ	ヤーエール
וַיִּתְּנֶךָ	אֵלֶיךָ	פָּנָיו	יְהוָה	יָאֵר
..(主が)あなたを恵まれますように	あなたに(向けて)	御顔を	主が	照らし

シャーローム	レハー	ヴェヤーセーム	エーレーハー	パーナーヴ	アドナーイ	イッサー
שְׁלוֹם	לְךָ	וַיִּשֶׂם	אֵלֶיךָ	פָּנָיו	יְהוָה	יָשָׂא
平安を	あなたに	(主が)賜るように	あなたに(向けて)	御顔を	主が	上げて

(引用：牧師の書齋 <http://meigata-bokushin.secret.jp/>)

※ 連続して発音する場合は以下

イエヴァーレフハー アドナーイ ヴェイシエメレハー

ヤーエール アドナーイ パーナーヴ エーレーハー ヴィーフネッカー

イッサー アドナーイ パーナーヴ エーレーハー ヴェヤーセーム レハー シャーローム

- 24 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。  
 25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。  
 26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

(民数記 6:24~26)

あらゆる理解を超える平安、平和の君、平和の主だけが与えられる平安です。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

#### 【写真出典一覧】

6月12日に行なわれた米朝首脳会談 : Wikipedia “North Korea - United States Summit”

フリードマンアメリカ大使 : U.S. Embassy in Israel Ambassador David Melech Friedman

ジャレッド・クシュナー大統領上級顧問 : Wikipedia 「ジャレッド・クシュナー」

オスロ合意 : Wikipedia 「オスロ合意」

アブ・ディスとエルサレムを隔てる壁 : Wikipedia “Abu Dis”